

調査隊からの報告



調査隊員による「ごみ組成分析調査(第2回)」を9月26日(土)に行いました。今回は、3市それぞれから不燃ごみを合計313kg集めて行い、合計16人の方が親子で参加して下さいました。各市によって多少の違いはありましたが、平均すると不燃物が約77%、可燃物が約6%、資源物が約16%ほど含まれていました。次回の調査隊活動(第3回)は、3月27日(土)に行う予定です。詳しいスケジュールなどにつきましては、次号でお知らせします。またふるってご応募ください。お待ちしております。



「ごみわけが大変だった。」
「奥かった。だけど楽しかった。」
「容器に入った食べ物などの商品を、後(処理・処分)のことを考えず手軽に買ってしまうことを反省させられた。」
「分別を徹底しろとかみさんにいつも怒られている。今日やってみて、分別の不徹底な状況を実感した。」

ダイオキシン類の測定結果をお知らせします。

ダイオキシンは、ごみを燃やすことに伴い発生してしまう物質です。現在の技術では、発生をゼロにすることは残念ながら不可能です。衛生組合では、ダイオキシンを低減するためにさまざまな対策をとっており、昨年7月～11月に実施した測定では、国の規

制値(80ng-TEQ/Nm³)を下回っております(表参照)。しかし、4年後の平成14年12月からは、1ng-TEQ/Nm³という更に厳しい規制値が設定されており、更に改善が必要です。組合では、引き続きダイオキシン類低減対策を実施していきます。

ng-TEQ/Nm³とは、燃焼を900℃に保ちながら1立方メートルの燃焼ガスに含まれるダイオキシン類の量を、最も毒性の高いダイオキシンの量に換算して、10億分の1g単位で表わしたものです。

平成10年度ダイオキシン類排出濃度測定結果

	ダイオキシン類濃度	衛生組合に運用される国の規制値
3号炉	0.64	80
4号炉	0.84	平成14年12月1日からは、1
5号炉	1.2	

単位はすべてng-TEQ/Nm³

ごみいった話 ～小村大の困った。困った。～

普段の不燃ごみピット



1月6日の年末年始の燃焼炉



年末年始の恐怖

年末年始には、クリスマス、忘年会、お正月など楽しいイベントが盛りだくさん。まつりの残片つきの残骸も盛りだくさん。そのごみの量は12月25日を過ぎるととんと増えます。そう、私にとっては楽しいイベントが恐怖の始まりなのです。ごみは休むことなく発生して、収集する車も大忙し。そうして、どんどん運び込まれてきます。処理しても増え続けて、あっという間にごみの山。もちろん私は24時間働きますし、破砕機さんは残業します。それでもごみは、どっぴりとあふれかえってしまうんです。一番のピークは1月4日、5日でした。普段のごみの一日平均搬入量は320tくらいですが、この時は2日間で1,130t(過去には一日で1,000tを超えた事も)。不燃ごみについては、なんと普段の3倍の搬入量がありました。私にとっては、このごみの量が「年末年始の恐怖」なのです。大掃除や楽しいイベントなどで、どうしてもごみが増えてしまいますが、みんなでごみを減らせる工夫を考えてみませんか? 来年こそは「年末年始の恐怖」と遭遇しない事を願っています。

ちょっと難しいコラム ごみ問題に効く薬

風邪や頭痛になると飲む薬、人それぞれ効く種類が異なるようです。良く効く薬は、個人や体質によって微妙に異なることもあるからです。でも病気に打ち勝つ力は、本来、自分自身を持っているもの。元々持っている病気を治す力、この力を応用するのがこの「薬」の仕事です。さて、ごみ問題は、環境問題の一つです。私たちの生活習慣に、環境という隠れた薬を当ててみませんか。もしかしたら気づかないうちに病んでいるかもしれません。3市から衛生組合に運ばれるごみの量は、近年少しずつ減少しています。それは資源がリサイクルされることによって、ごみになる量が減っているということです。ところが、市民一人ひとりが排出する資源を含めた総量は、変わっていません。リサイクルは大切ですが、環境負荷をゼロにすることは出来ません。つまり、ごみ問題を解決に向けるためには、発生するごみの量を減らさなければならないのです。ごみ問題は、長年の暴飲暴食がたたった成人病の合併症にたとえられます。私たちは、突然の成人病になる前に、生活習慣(体質)そのものの改善を図っていく必要があります。そのためには、「薬方案」のように市民や社会の多くの考えを集め開会した薬が有効なのではないでしょうか。

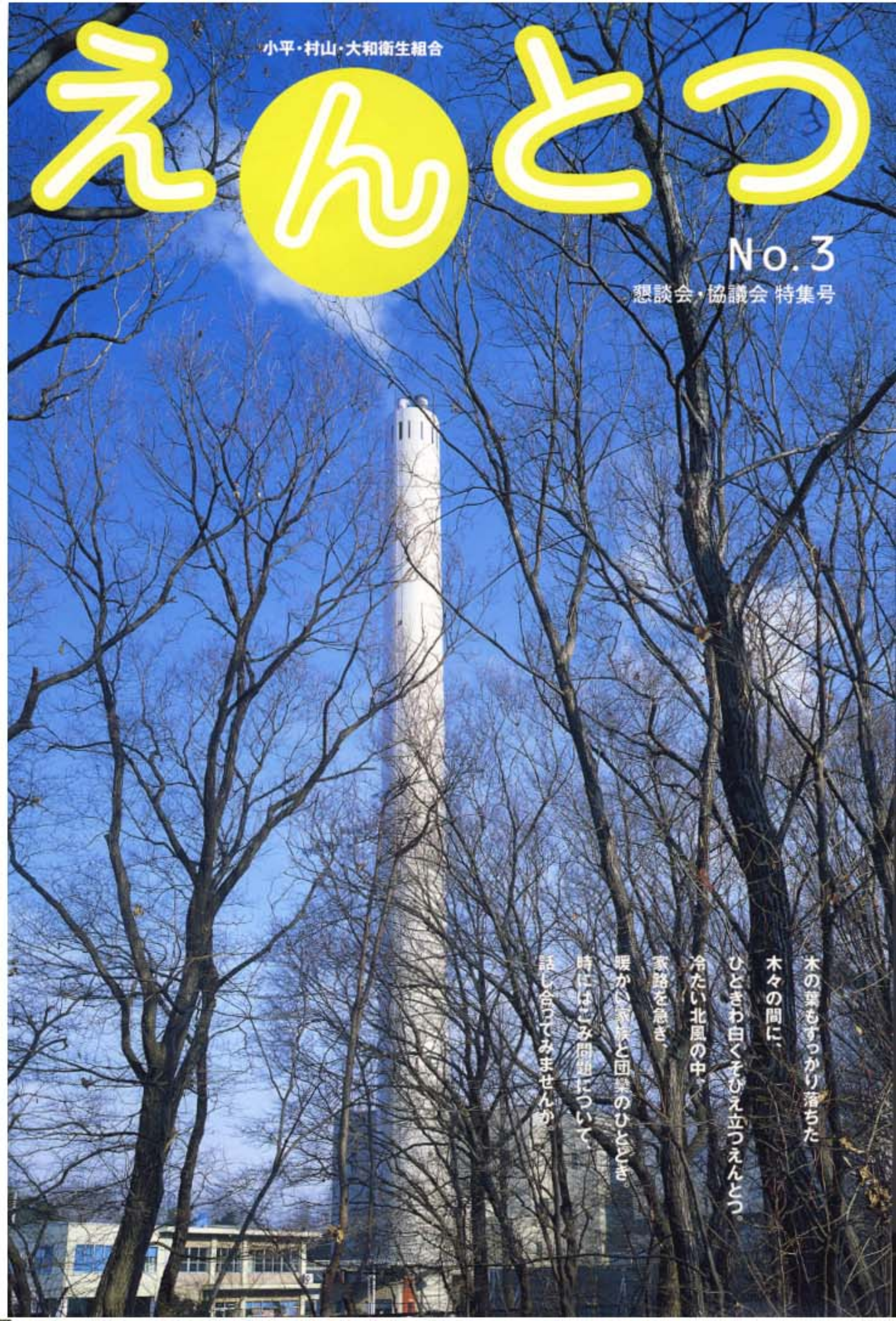
VOICE 編集後記

制度慣例になりました街頭インタビュー。げんそうに足音で、風とともに立ち上った方もいらっしゃいました。楽しい。でも、ほとんどの方は、色々とお話をお聞かせいただきました。本当にありがとうございました。

今回のテーマは家庭の事だったので、これが一家庭で何かが起きているという事実が伝わった。また、あまりごみ問題に関心なかった人も、ちよっと興味を持ってもらえたらしいです。

家庭内に限らず、私たちが暮らす環境する時には「家」が一番大事だと感じました。家という表現が、たまたま「悪いやり」でもかまいません。私たち一人ひとりのことばや行動が色々な所で影響があり、そして社会全体が動いている。人それぞれの立場や役割があり、それぞれが持っている思いやりの心を持って、様々な問題に立ち向かっていく。いいなと感じています。では、また次号でお会いしましょう。

発行元
小平・村山・大和衛生組合
住所/小平市市島町2番1号
電話/042-344-1434
平成11年2月発行



小平・村山・大和衛生組合

えんとつ

No.3

懇談会・協議会 特集号

木の葉もすっかり落ちた
木々の間に、
ひときわ白くそびえ立つえんとつ
冷たい北風の中、
家路を急ぎ、
暖かい家族と団圓のひととき。
時にはごみ問題について
話し合ってみませんか

突然ですが、みなさんは、家族で「何か」を決めるときどうしていますか？ ペットを飼うとき、家族旅行、家のルールを決めるとき。お姉ちゃんの習い事、お兄ちゃんの進学、お父さんの転職、引越や古くなった家の建て替えなど。家族全員に関わることやお金がとてめにかかること、あなたのおうちでは、どうですか？

東大和市の図書館で新聞を読んでいた男性
妻を亡くし、今は一人暮らし。最近、決めたのはパソコン購入。息子が詳しいのでいろいろ相談して決めました。身の回りのことなどは娘や嫁に相談し、場合によっては、まかせちゃいます。清掃工場のことで皆さんの意見を聞くのは大事だと思う。特に、問題視されていることは、市民の立場で考えてどんなデータを公開すべき。知りたくても情報がなく、わからないまま「なぜなんだろう」と感じながら過ごしている人が私の周りにもたくさんいますよ。



武蔵村山市役所に来た男性

家族で決めること？ あんまり無いです。まだ結婚してないんで個人で決めます。親と一語なので、難しい事とかお金のかかる事とかは親に相談します。車を買った時は父に相談しました。



小平市の図書館に来た小学生2人

Aさん／日曜の家族会議で決めます。反対でも我慢して合わせる。最近決めた事は「ご飯の時、テレビをあまり見ないよう努力する」。これはお母さんの意見です。

Bさん／日曜日みんなで集まって決めます。4人家族で弟がいます。大体、みんな意見は合います。



武蔵村山市役所に来た男性

妻が外国人なので、細かい事は相談せず私が決める。あっちから希望を言ってくれば意見を取りいれます。



東大和市の図書館に来た19才の男性

いろいろだけど、両親が決めるのがほとんど。嫌だと思っても特に反対しない。どっちかというところ、お父さんよりお母さんのほうが強いかな。



小平市の図書館に来た女性

主人と二人で決めます。大体は、私が「こうね」と話して「うん、いいよ」とすんなり決まる。最近、孫の七五三のお祝いを決めました。もめたこと？ お祝い金の額についてかしらね。主人は「もっと少なくとも良いじゃないか」と言ったんですけど「このくらいが相場なの」と説明したら「わかった」と泣き従いました。そのへんの世間常識は、都会育ちの主人はあまり知らないみたいね。



武蔵村山市役所に来た女性

「人に迷惑をかけない」という基準で、家族の問題は全員で話し合います。それによって気付くこともありますね。些細なことですが、子供がよく友達を連れてくるので「ここは入っちゃだめ」とか「まずおじいちゃんに挨拶する」という決まりを作りました。年長者を敬う気持ちを持って欲しいし、おじいちゃんも喜びますから。それに、ちょっとうるさくしても大目に見てもらえますしね。



武蔵村山市役所で展示を見ていた女性

私一人暮らしだから…。でも八王子と茅ヶ崎に息子がいて、色々面倒見てくれます。親の相続をどうするかを決める時も、嫁共々みんなで話し合い、長男が中心になってみんなが平等になるようまとめてくれました。



どうする？ 家族で大切なことを決めるとき そして小村大衛生組合では

東大和市の図書館に来た
中学3年生の女の子

家族で話し合います。3人兄弟ですが、学校での問題とかをよく話して、思ったことを言い合います。違う意見でも否定しないで、よく話し合っ



東大和市の図書館で紙芝居練習中の2人

Aさん／まずお父さんに相談して、それから子供たち。特に子供たちの気持ちに関わることはちゃんと話しますね。子供も高学年になるとあまり親の言う事は聞かなくて、中学進学の時も、私は私立がよかったんですが、息子は「公立に行く」って譲らなくて。ずっと説得したけどだめだったわ。

Bさん／大事なことはお父さんに相談します。子供の意見は尊重しますが、大体親の主張がとおりです。すんなりと決まりますよ。もめごともなく、普段はのほほんと暮らしていますね。(笑)

小平市の図書館に来た大学生2人

Aさん／みんなで集まって話。身近な母親に相談してから、父に。父はお店で忙しいので最後。反対されても納得いく理由なら従うと思う。今は一人暮らしですが、就職を決める時は家に帰って話し合いました。

Bさん／兄弟で話し合っ、それから母に相談します。父は仕事の都合で、一番最後。反対されても、自分が納得いくならいい。



これからの私のこと、 いっしょに考えてください

家族で何かを決める時、みんな立場が違うから、考え方や希望は違っても当然。だからこそ、「こうしたい」「それは嫌」と主張するだけでなく、お互いの立場や意見を理解した上で、一緒に考え、話し合い、一番いい答えを見つけていく。それが大切な事だと思うのです。
そこで、定年間近な私の後継ぎ問題。小村大という約32万人もの大家族の決め事です。みんなに関わる、とても大事なことから、じっくり話し合い、大家族みんなが受け入れられる答えを見つけていきたいと思います。

懇談会を設置しました。

一番いい後継ぎを決めるために、話し合い、ご意見をいただく「循環型ごみ処理施設検討懇談会」を設置し、第1回を12月6日に行いました。懇談会メンバーは合計15人。3市のごみ審議会代表の方6人、衛生組合周辺の住民代表の方5人、

公募で集まってくださった方3人、技術面の専門家1人。いろいろな立場から、貴重なご意見をいただきました。次回は、2月13日(土)に行います。傍聴をご希望の方は、下記の問い合わせ先までご連絡ください。
なお、懇談会の経過は、「えんとつ」でご報告していきます。

広報「えんとつ」には、 「地域版」もあります。

みんなで話し合っていくもう一つの場が「小平・村山・大和衛生組合のごみ処理事業に関する連絡協議会」です。こちらの経過は、「えんとつ地域版」でお知らせしていきます。「えんとつ地域版」は、衛生組合の周辺200m圏内のご家庭にお配りしています。

問い合わせ先：

小平・村山・大和衛生組合 施設建設課
☎042-348-0053 (直)